

事業ID:2020562650

事業名:井ぶり王国 福井県民による海ごみゼロプロジェクト(CFB・海と日本2021)

団体名:福井県プロジェクト実行委員会

イベント実施報告書

施策タイトル	海洋ごみに関するアンケート調査
実施期間	第1回2021年4月26日(月曜日)～5月2日(日曜日) 第2回2021年11月29日(月曜日)～12月5日(日曜日)
開催場所	福井テレビWEBクラブ
参加人数	福井テレビWEBクラブ会員 約4万人の中から抽出した約400人
主催	福井県プロジェクト実行委員会
開催概要	5月と12月の2回、福井テレビWEBクラブ会員に向け海洋ごみに関するアンケート調査を行い、福井県民の取り組み度や意識がどのように変わったか、周知できているかなどを計る。
施策詳細	<p>以下の内容でアンケート調査を行った。</p> <p>□調査内容 : 【どちらか】 ○「あなたは海洋ごみの問題をご存知ですか？」 ◎はい ◎ いいえ</p> <p>【ひとつ選択】 ○「あなたはプラスチックごみの海への影響が気になりますか？」 ・とても気になる ・少し気になる ・どちらでもない ・あまり気にならない ・全く気にならない</p> <p>【自由記述欄】 ○「あなたは海洋ごみの問題でどんなことが知りたいですか？」</p> <p>【ひとつ選択】 ○「あなたは自分の生活の中で、プラスチック製品・プラスチック容器の利用を今より減らした方がいいと思いますか？」 ・とてもそう思う ・まあそう思う ・どちらでもない ・あまりそう思わない ・まったくそう思わない</p>

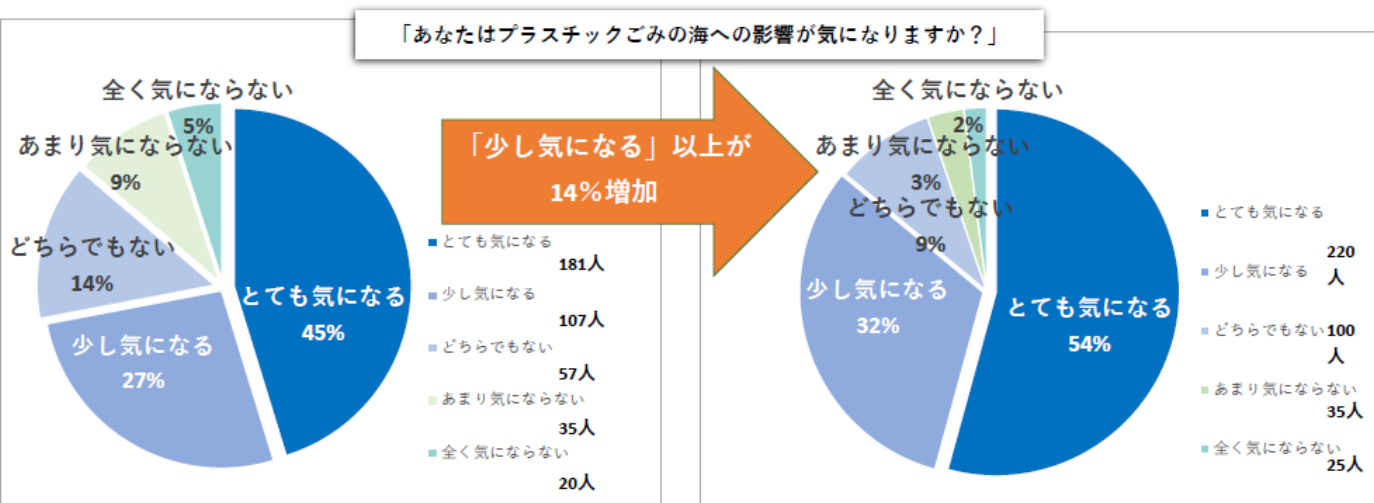
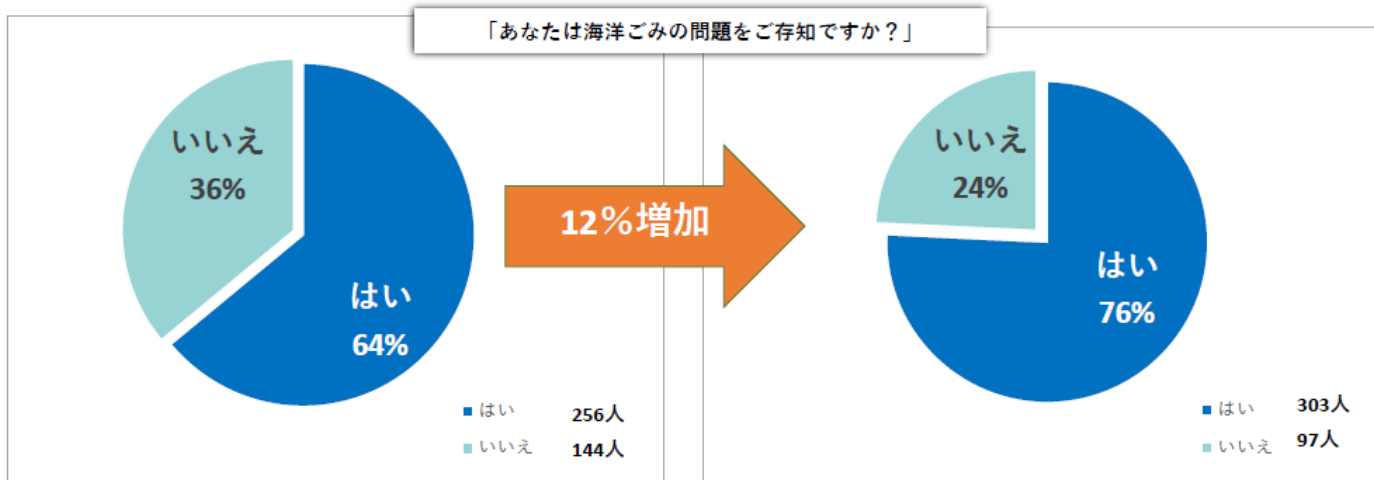
イベント実施報告書

<p>施策詳細</p>	<p>【複数選択可】 ○「日常生活の中で海を汚さないための行動をどのくらい実践していますか？」 <input type="checkbox"/>マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない <input type="checkbox"/>マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器(ペットボトルなど)をできる限り使用しない <input type="checkbox"/>できる限りスプーンなどの食器・ストロー・おしぼり・アメニティグッズを受け取らない <input type="checkbox"/>ルールに従って、ごみを正しく分別する <input type="checkbox"/>リサイクル材や、植物を原料としたプラスチックなどを使った製品を積極的に選ぶ <input type="checkbox"/>ポイ捨て・不法投棄はしない <input type="checkbox"/>路上などに落ちているごみを積極的に拾う <input type="checkbox"/>街中や海岸で行われる清掃活動に積極的に参加する</p> <p>【複数選択可】 ○「日常生活の中で海を汚さないための行動をどのくらい実践しようと思えますか？」 <input type="checkbox"/>マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない <input type="checkbox"/>マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器(ペットボトルなど)をできる限り使用しない <input type="checkbox"/>できる限りスプーンなどの食器・ストロー・おしぼり・アメニティグッズを受け取らない <input type="checkbox"/>ルールに従って、ごみを正しく分別する <input type="checkbox"/>リサイクル材や、植物を原料としたプラスチックなどを使った製品を積極的に選ぶ <input type="checkbox"/>ポイ捨て・不法投棄はしない <input type="checkbox"/>路上などに落ちているごみを積極的に拾う <input type="checkbox"/>街中や海岸で行われる清掃活動に積極的に参加する</p> <p>【自由記述欄】 ○「上記以外であなたが実施している海を汚さないための行動を教えてください。」 ※福井県プロジェクトのイベントで紹介させていただく場合がございます。</p> <p>【自由記述欄】</p>
-------------	--

海洋ごみ問題アンケート集計結果と分析

2021年4月調査結果

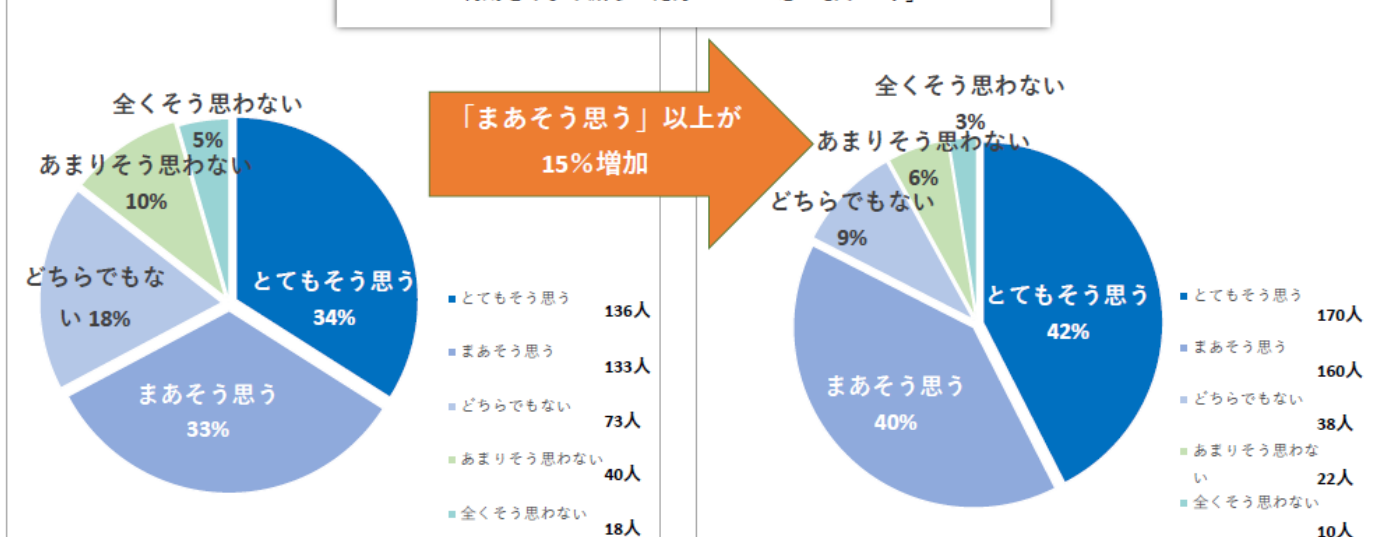
2021年12月調査結果



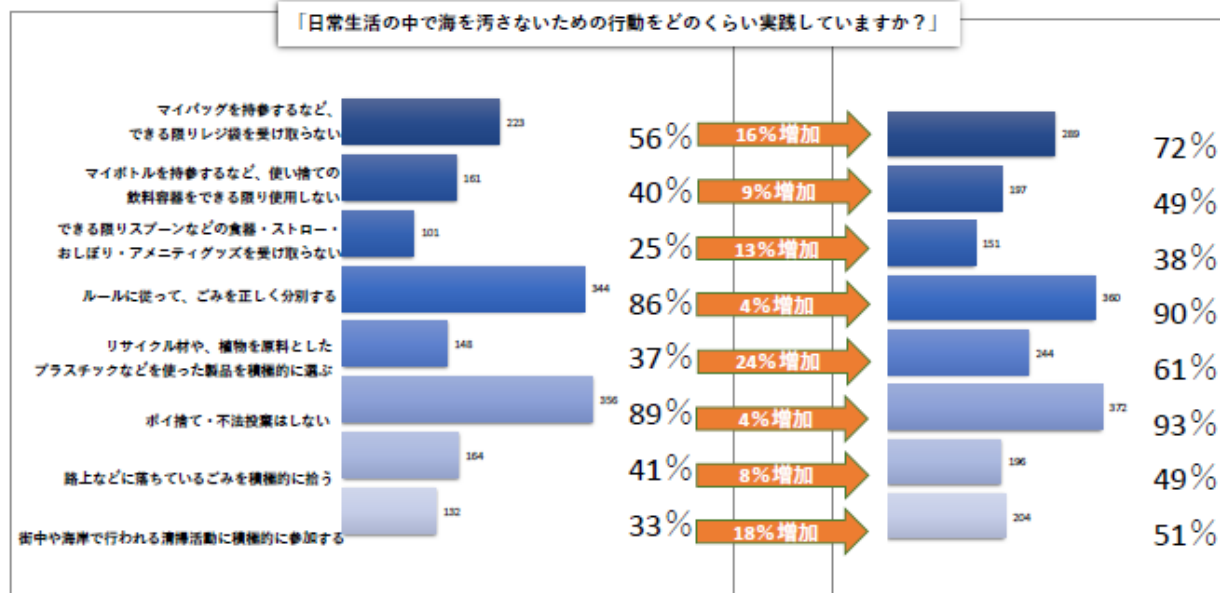
「あなたは海洋ごみの問題でどんなことが知りたいですか？」 (抜粋)

- ・ 1日当たりに出るごみの量はどれくらいか。
- ・ ごみを分別して出しているのに、なぜ海にたくさんごみが流れ着いているのか。
- ・ マイクロプラスチックと魚の関係はどうか。魚か食べたものを人間が食べる。人間に対する影響が心配。
- ・ 生態系への影響はどうか。
- ・ プラスチック代用品の価格は。
- ・ 生物に被害が無いものの開発は進んでいるのか。
- ・ 他国からのごみが流れて来ているので対策はないのか。
- ・ 消費者の問題もあるが、製造業・販売業を巻き込んだ大きな流れを作れないか。
- ・ 廃棄されるプラスチックごみの再生に回収されているのは何%くらいか。

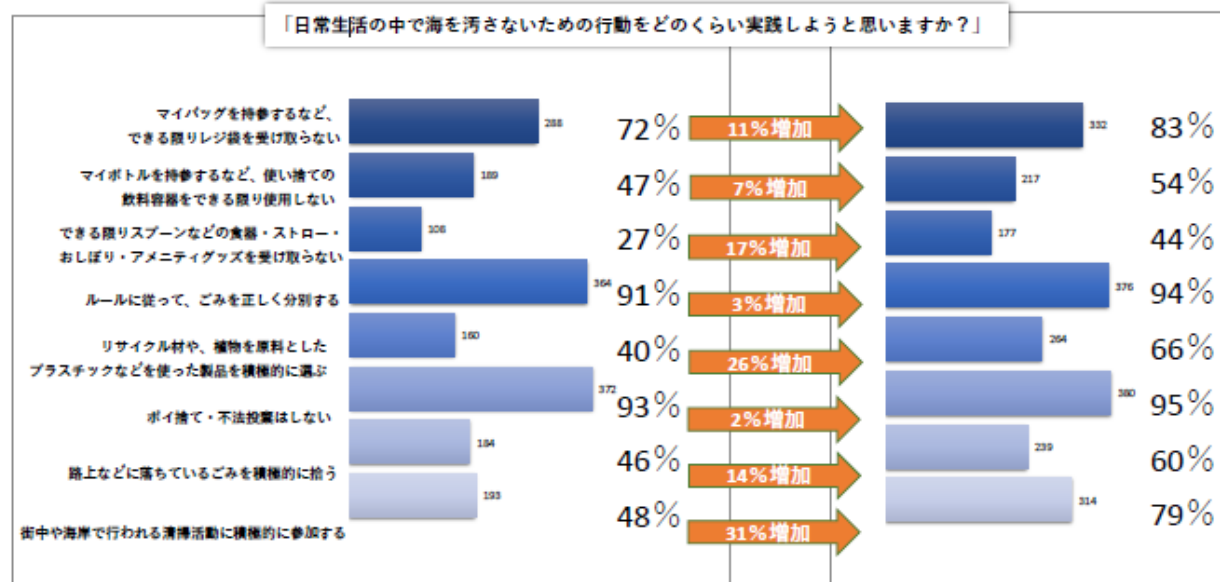
「あなたは自分の生活の中で、プラスチック製品・プラスチック容器の利用を今より減らした方がいいと思いますか？」



「日常生活の中で海を汚さないための行動をどのくらい実践していますか？」



「日常生活の中で海を汚さないための行動をどのくらい実践しようと思いますか？」



「上記以外であなたが実施している海を汚さないための行動を教えてください。」(抜粋)

- ・ 何度も繰り返し使えるラップやスタッシャーなどを使うようにしている。
- ・ スーパーの食べ終えたプラスチック容器をスーパーのエコ広場へ持って行く。
- ・ マイボトル、マイ箸、エコバッグは、当たり前になっている。
無理なくやっつけられることから取り組んでいけると良いと思う。
- ・ 贈答品買い物の際には「簡易包装で」と声をかけている。
- ・ 海・川のごみ拾い・地域の清掃活動に積極的に参加している。
- ・ 特にコンビニや過剰な包装のファストフード店では必ずレジ袋等受け取らないようにしている。
- ・ 洗い物をするときに、皿や鍋の汚れはある程度拭きとり、水を汚さないように心掛けている。
- ・ 一括りにごみと考えると意識が続かない。何が資源で、何が廃棄するしか無いものか考えて生活するようにしている。
- ・ ちゃんとできているのはマイバック持参とごみの分別くらいなのでこれから何ができるか考えてみたい。
- ・ 釣り客に、ごみを持ち帰るように呼び掛けている。

<p>参加者からの声</p> <p>自由記述 一例</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 今テイクアウトで食事される人が多いですが、容器はプラスチックが大半、コンビニ等の弁当も同様で気になっている。こういったプロジェクトで、自分を含めひとりひとりが意識するいい機会だと思う。・ ずいぶん前からごみ拾いなど、子供たちもきれいにすることは学んでいるのに、大人になるとできなくなるような気がしてならない。・ ごみ問題について、気になってはいるのにこちらのアンケートに答えて、改めてなかなか実行出来ていないと感じた。普段の生活でもごみは持って帰りきちんと処分して、海に流れ着くごみを減らしたい。・ 我が家では、燃えるごみよりプラスチックごみの方がすぐにごみ袋がいっぱいになる。都会では、食品など欲しい量を容器に積めて購入できる店があると聞き、そういう店が広がれば良いと思う。・ 自身が『捨てない』『汚さない』の気持ちを持つべきだと思う。『これくらい…』と思うのが大間違い！幼児の頃から教えるべきだと思う。・ 一人一人の小さなアクションで少しずつでも改善していくべき問題だと思う。・ 年寄りや身近な地区の清掃とエコバッグを持参での買い物、分別してのごみ出しくらいですが少しでも…という気持ちは持ち続けたいと思っている。より良い解決にわずかでも貢献しなければならないと再認識した。・ 死角になっている道路などでは、まだまだポイ捨てがみられる。モラルがない人が多く、残念。・ 子供達が住み良い世界になるように少しでも何か出来ると良いと思う。自分の子供やその先の未来のために考えていきたい。・ 最低限のルール、秩序、マナーくらいはできないのか(守れないのか)と思うことが多々ある。この海をきれいにするのも汚すのも私たちひとりひとりの心がけ、行動からだと思う。浦島太郎がプラ島太郎にならないようにしていきましょう！！
<p>所感</p>	<p>上記の比較において、パーセンテージがどの質問に対しても2021年度の活動を実施する前→後で増加しており、海洋ごみやプラスチックに関する意識が高まっていることがわかる。2019年から引き続き今年度も年間を通して「海洋ごみに対する問題提起」をイベント・ごみ拾い活動・出前授業等の中で行い、それに伴う参加者やCM告知含め広報等で認知度を上げていき、結果「海洋ごみ問題に関する認知度・実践」に繋がったと推測する。</p> <p>『日常生活の中で海を汚さないための行動をどのくらい実践していますか?』に対し、ごみ分別やポイ捨てしないは身近で実践しやすいが、アメニティグッズを受け取らない・リサイクル材等を使用した製品を選ぶというのはなかなかハードルが高いのだと感じた。また、実践しようとは思っているが、実際行動できていないことも読み取れるので、引き続きイベントを通して、プラスチックフリー製品等呼びかけ・提案をしていきたい。また、路上などに落ちているごみを積極的に拾うというものより、街中や海岸で行われる清掃活動に積極的に参加する方が行動に移しやすいことも読み取れるので、引き続きごみ拾い活動を県内各地で進めていきたい。</p>